

令和5年8月3日(木)  
令和5年度保健師中央会議  
資料11

## HPVワクチン接種の現状について

令和5年8月3日(木)

厚生労働省 健康局 予防接種担当参事官室

ワクチンシステム高度化推進専門官 小畠啓史

# HPVワクチンに関するこれまでの経緯

## 【子宮頸がんについて】

- 日本で年間約1.1万人が罹患、約2,900人が死亡。また、25～40歳までの女性でがん死亡の第2位。
- ほとんどの子宮頸がんはH P V（ヒトパピローマウイルス）への感染が原因。



ヒトパピローマウイルス

## 【HPVワクチンについて】

- HPVワクチンは、HPVへの感染を防ぐことで、子宮頸がんの罹患を予防。
  - HPVワクチンは、子宮頸がんの原因の50～70%を占める2つのタイプ（HPV16型と18型）のウイルスの感染を防ぐ（2価・4価）。
  - 小学校6年～高校1年相当の女子に対し定期接種が行われている（標準的な接種期間：中学校1年(13歳になる学年)の女子）。
- ※ 子宮頸がんの予防に当たっては、併せてがん検診を受診することが重要。

## 【海外の状況】

- 世界保健機関（WHO）が接種を推奨。
- 米、英、独、仏等の先進各国において公的接種として位置づけられている。

平成22年11月26日～ 平成25年3月31日	平成22、23年度補正予算により、子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業（基金）を実施
平成25年4月1日	予防接種法の一部を改正する法律が施行され、HPVワクチンの定期接種が開始された
⇒ 以降、疼痛又は運動障害を中心とした多様な症状が報告され、マスコミ等で多く報道された	
平成25年6月14日	厚生労働省の審議会※で、「ワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛の発生頻度等がより明らかになり、国民に適切な情報提供ができるまでの間、定期接種を積極的に勧奨すべきではない」とされ、 <b>積極的勧奨差し控え</b> （厚生労働省健康局長通知） ※ 厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会と薬事・食品衛生審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会の合同開催
⇒ 以降、	<div style="border: 1px dashed yellow; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>① HPVワクチンのリスク（安全性）とベネフィット（有効性）を整理</li> <li>② HPVワクチン接種後に生じた症状に苦しんでいる方に寄り添った支援をどう進めていくのか</li> <li>③ HPVワクチンの安全性・有効性等に関する情報提供をどう進めていくのか</li> </ul> </div> <p style="text-align: right;">審議会において検討</p>
令和4年4月1日	審議会の結論をふまえ、 <b>積極的勧奨の再開及び接種の機会を逃した方に対するキャッチアップ接種を開始</b>

# 令和4年度から実施しているHPVワクチンに関する施策

## 1. 積極的勧奨（予診票の個別送付等）の再開

- 接種実施医療機関における接種体制の整備等を進め、**令和4年度から積極的勧奨（予診票の個別送付等）を再開。**
- 今後、HPVワクチンの定期接種を進めるに当たっては、接種後の症状に対する相談支援体制・医療体制等の維持・確保が重要。厚生労働省から、自治体に対して、関係機関（自治体、協力医療機関・地域の医療機関）に求められる役割についてお知らせしており、従来からの連携の枠組みを再活性化・強化。
  - ➡ 接種を希望する方に対し、適切かつ十分な情報提供、円滑な接種、接種後に体調の変化等が生じた方への必要な支援が行われるような体制を構築。

## 2. キャッチアップ接種

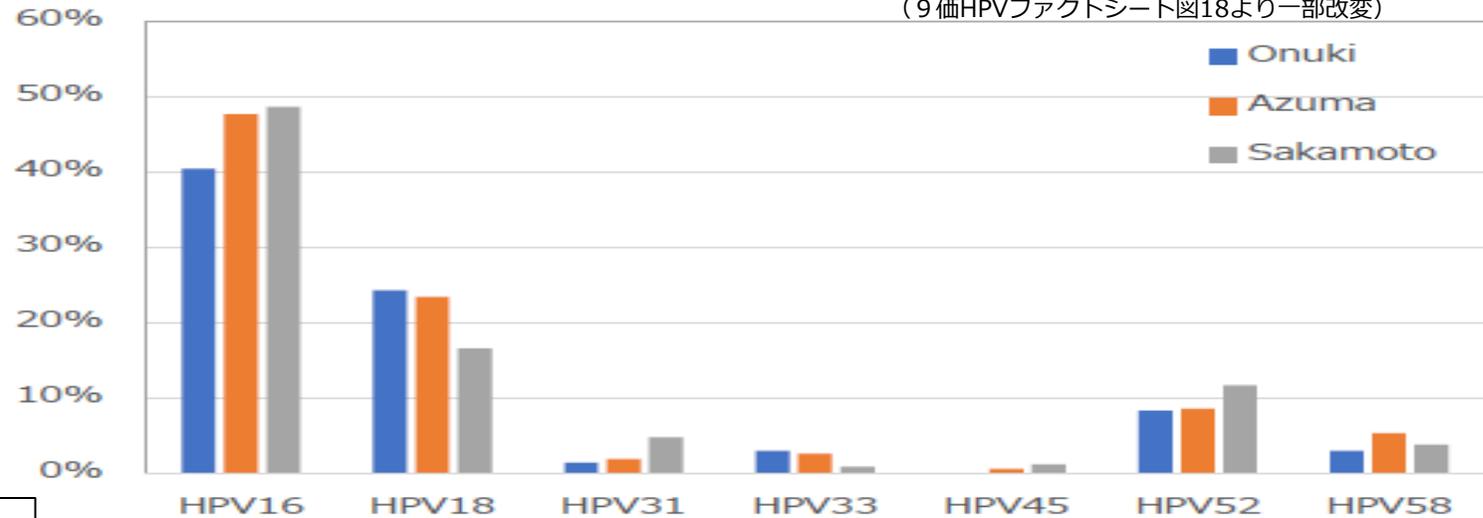
- HPVワクチンの積極的な勧奨の差し控えにより接種機会を逃した方に対して公平な接種機会を確保する観点から、積極的な勧奨を差し控えている間に定期接種の対象であった**9学年（H9年度生まれ～H17年度生まれ）すべてをキャッチアップ接種の対象**とする。 ※令和5年度からはH18年度生まれの女性もキャッチアップ接種の対象
- 接種対象者の接種機会の確保の観点や、地方自治体の準備、医療機関における接種体制等の観点を踏まえ、**キャッチアップ接種の期間は3年間**とする。
- 予防接種法施行令を改正し、**令和4年4月1日施行。**

# 9 価HPVワクチンについて

ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症を予防する9 価HPVワクチンは、子宮頸がんの発生に関連するHPVのうち、現在定期接種で使用されている2 価・4 価HPVワクチンよりも多くの、9 種類の遺伝子型を標的としており、子宮頸がん及びその前がん病変の罹患率の減少、子宮頸がんの死亡率の減少が期待される。

## 日本人女性の子宮頸がんにおけるHPV 遺伝子型の分布

(9 価HPVファクトシート図18より一部改変)



尖圭コンジローマ (※)

HPV 6 HPV 11

2 価ワクチン

4 価ワクチン

64.9~71.2%を標的

9 価ワクチン

81.0~90.7%を標的

※ HPV6、11型は、尖圭コンジローマの主な原因となる遺伝子型である。

# 9 価HPVワクチンの定期接種化の検討の経緯

第41回予防接種・ワクチン分科会  
(令和4年11月18日)資料1  
一部改変

- 平成22年11月 子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業開始。
- 平成25年4月 ヒトパピローマウイルス感染症に対するHPVワクチン（2価・4価）の定期接種開始。
- 令和2年7月 **9価HPVワクチンが製造販売承認された。**
- 令和2年8月 第16回ワクチン評価に関する小委員会において、9価HPVワクチンを定期接種で使用する事の是非に関する検討が開始され、国立感染症研究所に9価HPVワクチンに関するファクトシートの作成を依頼。
- 令和3年1月 「**9価ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンファクトシート**」が提出された。
- 令和3年4月 第17回・第18回ワクチン評価に関する小委員会において、ファクトシートに基づき、**9価HPVワクチンの定期接種化に向けて検討を要する論点の整理及び議論が行われた。**
- 令和4年3月
- 令和4年8月 第19回ワクチン評価に関する小委員会において、**9価定期接種化は技術的な問題はないと結論付けられ、議論の取りまとめ文書（基本方針部会への報告書）が作成された。**
- 令和4年10月・11月 第49回・第50回基本方針部会において、**9価の定期接種化に向けて具体的な議論が行われ、令和5年度からの定期接種化等について了承された。**
- 令和5年2月 第52回基本方針部会において、9価HPVワクチンを定期接種に用いるにあたっての接種方法の具体的な考え方について検討が行われた。
- 令和5年3月 15歳未満の女子について合計2回の接種で完了となる用法・用量が承認される方針となったことを受け、第53回基本方針部会において、**2回接種についても3回接種とあわせて令和5年度から定期接種に導入することが了承された。**
- 令和5年4月 9価HPVワクチンの定期接種開始。

# HPVワクチンの情報提供について

厚生労働省HPでは、HPVワクチンに関する情報をわかりやすくまとめたリーフレットを公開しています。  
9価HPVワクチンの定期接種化を踏まえ、新しいリーフレットの作成や、既存リーフレットの改訂を行いました。

## <新規リーフレット>

令和5(2023)年4月より  
**9価の「HPVワクチン」を  
公費で接種できるようになりました**  
「子宮頸がん」で苦しまないために、今からできることがあります

Q 「HPVワクチン」とはなんですか？  
A HPVワクチンは、子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス（HPV）の感染を防ぐワクチンです。HPVワクチンには、9価のワクチン（9価ワクチン）と、4価のワクチン（4価ワクチン）があります。どのワクチンも接種する場合は、原則1回接種が必要です。

Q 9価のHPVワクチン（9価ワクチン）とは、どのようなワクチンですか？  
A HPVにはいくつもの種類（型）があり、9価ワクチンには、21種類のHPVの感染を防ぐワクチンです。その中でも、子宮頸がんの原因の約90～99%を占める、7種類のHPVの感染を防ぐことができます。

Q 9価ワクチンの接種後に副反応はありますか？  
A 9価ワクチンの接種後には、右表の副反応が報告されています。接種後に接種部位が赤くなる症状がほとんどです。接種後に接種部位が赤くなる症状が現れたら、まずはワクチンを受けた医療機関などの医師にご相談ください。

**あなたと関係のある“がん”があります**

- 子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんです。日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮頸がんにかかり、約2,000人の女性が子宮頸がんによって亡くなっています。
- また、若い年齢層で発症する割合が約2割に達する。患者さん200名から300名までがんの診断で子宮を失ってしまう（摘出）患者さんが増えてきました。日本では、25～40歳の女性のがんによる死亡原因は、子宮頸がんが1位となっています。
- HPVの感染をきっかけとして、母体の子宮頸がんを発生する期間が短縮されていますが、ワクチン接種によるHPV感染もありません。子宮頸がんを早期に発見し治療すれば、約20歳以上から、2年に1回、子宮頸がん検診を受けることが大切です。

厚生労働省

9価HPVワクチン接種のお知らせ  
(定期接種版)

令和5(2023)年4月より  
**「HPVワクチン」の接種の機会を逃した方も  
9価のワクチンを公費で接種できるようになりました**  
※接種機会を逃した方も2回接種（2回接種）により、子宮頸がんの発症リスクを低減することができます。

Q 「HPVワクチン」とはなんですか？  
A HPVワクチンは、子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス（HPV）の感染を防ぐワクチンです。HPVワクチンには、9価のワクチン（9価ワクチン）と、4価のワクチン（4価ワクチン）があります。どのワクチンも接種する場合は、原則1回接種が必要です。

Q 9価のHPVワクチン（9価ワクチン）とは、どのようなワクチンですか？  
A HPVにはいくつもの種類（型）があり、9価ワクチンには、21種類のHPVの感染を防ぐワクチンです。その中でも、子宮頸がんの原因の約90～99%を占める、7種類のHPVの感染を防ぐことができます。

Q 9価ワクチンの接種後に副反応はありますか？  
A 9価ワクチンの接種後には、右表の副反応が報告されています。接種後に接種部位が赤くなる症状がほとんどです。接種後に接種部位が赤くなる症状が現れたら、まずはワクチンを受けた医療機関などの医師にご相談ください。

**あなたと関係のある“がん”があります**

- 子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんです。日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮頸がんにかかり、約2,000人の女性が子宮頸がんによって亡くなっています。
- また、若い年齢層で発症する割合が約2割に達する。患者さん200名から300名までがんの診断で子宮を失ってしまう（摘出）患者さんが増えてきました。日本では、25～40歳の女性のがんによる死亡原因は、子宮頸がんが1位となっています。
- HPVの感染をきっかけとして、母体の子宮頸がんを発生する期間が短縮されていますが、ワクチン接種によるHPV感染もありません。子宮頸がんを早期に発見し治療すれば、約20歳以上から、2年に1回、子宮頸がん検診を受けることが大切です。

厚生労働省

9価HPVワクチン接種のお知らせ  
(キャッチアップ版)



URL : <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/leaflet.html>

## <既存リーフレット（改訂版）>

概要版  
詳しく知りたい方への情報をお知らせします  
令和5(2023)年4月より  
**小学校6年～高校1年』の女の子と  
保護者の方へ大切なお知らせ**

HPVワクチンについて知ってください  
～あなたと関係のある“がん”があります～

厚生労働省

本人・保護者向け概要版  
(ピンク)

詳細版  
詳しく知りたい方への情報をお知らせします  
令和5(2023)年4月より  
**小学校6年～高校1年』の女の子と  
保護者の方へ大切なお知らせ**

HPVワクチンについて知ってください  
～あなたと関係のある“がん”があります～

厚生労働省

本人保護者向け詳細版  
(水色)

HPVワクチンの接種  
令和5(2023)年4月より  
9価の「HPVワクチン」を公費で接種できるようになりました

接種時の注意  
接種を受ける際のポイント  
接種後に接種部位のケア  
接種後に接種部位のケア  
接種後に接種部位のケア

厚生労働省

医療従事者版  
(緑)

令和5(2023)年4月より  
**平成9年度生まれ～平成18年度生まれの女性へ  
大切なお知らせ**

HPVワクチンの接種を逃した方に  
接種の機会をご提供します

厚生労働省

キャッチアップ版  
(紫色)

